

学習例 「バリアはどこにある？」（対象：中学生）

ねらい

障がいのある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら共に生きる社会の実現に向けて、心のバリアフリーを実践しようとする意欲や態度を身につける。

学習指導要領との関連（例）

●中学校道徳B・C

進め方

流れ	内容
導入 (5分)	・このようなサインやシンボルマークを知っていますか？ (障害者のための国際シンボルマーク、ほじょ犬マーク、耳マーク、ヘルプマークなど)
展開 (35分)	【ワーク1】 ・障がいのある人は、社会の中でどんなことにバリア（障壁）を感じているでしょうか。 【ワーク2】 ・4つのバリアには、他にどんなことがあるのか考えてみましょう (物理的なバリア、制度的なバリア、文化・情報面でのバリア、意識上のバリア) 【ワーク3】（グループワーク） ・「心のバリアフリー」って何だろう。グループで話し合ってみましょう。
まとめ (10分)	【振り返り】 ・気付いたことや考えたこと、障がいがある人もない人もともに生きる社会の実現に向けて、私たちができることを考えて書きましょう。

留意点

- ・バリア解消のための取組を考えるだけでなく、自分自身がバリアをつくっていることもあるかもしれないという気づきを促すようにする。
- ・自分が良いと思って行った行為が、そうではなかったときに、生じる「疑問」「不満」などが相手への先入観となって心にバリアを生み出すことがあることを伝える。

特別支援学校での取組方法

- ・写真等を用意し、経験と結びつけて考える。
- ・イラストの場面をペープサートを用いて条件や状況を押える。

■心のバリアフリーとは

バリアを感じている人の身になって考え、行動を起こすこと。

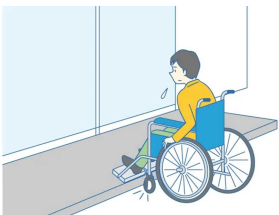



<参考> 政府広報オンライン [知っていますか？ 街の中のバリアフリーと「心のバリアフリー」](#)
[一歩踏み出す勇気で広げる「心のバリアフリー」](#)

文部科学省 【中高生用】心のバリアフリーノート

ワークシート「バリアはどこにある？」

氏名 _____

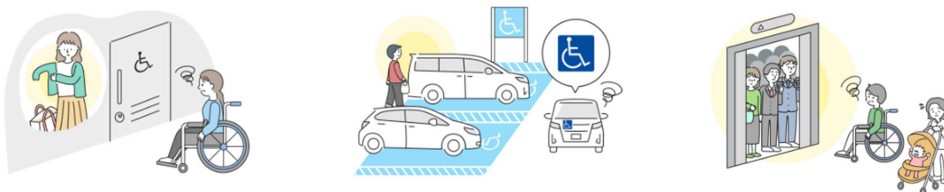
1. 障がいのある人は、社会の中でどんなことにバリアを感じているでしょうか。

<p>(1)</p> 	<p>(2)</p> 
<p>(3)</p> 	<p>(4)</p> 

2. 4つのバリアには、他にどんなことが考えられるでしょうか。

(1) 物理的なバリア	
(2) 制度的なバリア	
(3) 文化・情報面でのバリア	
(4) 意識上のバリア	

3. 施設を改善したり、最新式の設備に取り替えたりといったバリアフリーは、街の中に広まりつつあります。しかし、施設のバリアフリーだけで、全ての困りごとが解消されるでしょうか。施設のバリアフリーとともに「心のバリアフリー」が大切です。


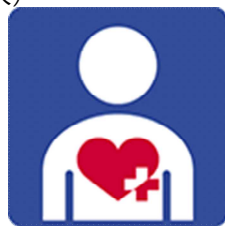



「心のバリアフリー」って何だろう？ グループで話し合ってみましょう。

4. 気付いたことや考えたこと、障がいがある人もない人もともに生きる社会の実現に向けて、私たちができることを考えて書きましょう。

教師用参考資料 「バリアはどこにある？」（対象：中学生）

（導入）バリアフリーに関するサインやマーク

障害者のための国際シンボルマーク 	視覚障害者のための国際シンボルマーク 	ほじょ犬マーク 	オストメイト（人工こうもん、人工ぼうこうをつけた人）を示すマーク 
ハート・プラスマーク （身体の内部に疾患がある人） 	ヘルプマーク 	耳マーク、手話マークなど <div> 耳マーク</div> <div> ヒアリングループマーク</div> <div> 手話マーク</div> <div> 筆談マーク</div>	
自動車の運転者が表示する標識 <div></div> <div>身体障害者標識 聴覚障害者標識 高齢運転者標識</div>			

<参考> 政府広報オンライン コラム ご存じですか？バリアフリーに関するサインやシンボルマーク

（展開）ワーク1 障がいのある人は、社会の中でどんなことにバリアを感じているのか。

(1)	お店の前の段差で車いすの人が困っている。 (物理的なバリア)
(2)	障害を理由に、就職試験を受けることができない。 (制度的なバリア)
(3)	車内アナウンスの内容がわからず、情報を得ることができない。 (文化・情報面でのバリア)
(4)	無意識に点状ブロックに立ったり物を置いたりしてしまっていることで、通れない。 (意識上のバリア)

（展開）ワーク2 4つのバリアには、他にどんなことが考えられるか。

物理的なバリア	路上の放置自転車、狭い通路、急こう配の通路、ホームと電車の隙間や段差、建物までの段差、滑りやすい床、座ったままでは届かない位置にあるものなど。
制度的なバリア	障害による困難さがあることを理由に、学校の入試、就職や資格試験などの受験や免許などを与えることを制限するなど。
文化・情報面でのバリア	視覚に頼ったタッチパネル式のみのお操作盤、音声のみによるアナウンス、点字・手話通訳のない講習会、分かりにくい案内や難しい言葉。
意識上のバリア	周囲からの心ない言葉、偏見や差別、無関心など、障害のある人を受け入れないバリアのこと。精神障害のある人は何をするか分からないから怖いといった偏見。障害がある人に対する無理解、奇異な目で見たりかわいそうな存在だと決めつけたりすることなど。

（展開）ワーク3 グループワーク 「心のバリアフリーって何だろう？」

<p>①イラストの確認</p> <p>バリアフリースイッチ：「服を着替えたい」という理由で利用する人がいると、バリアフリースイッチしか使えない人が利用できない。</p> <p>車椅子使用者用駐車施設：「入口に近いから」、「たくさん買うから」といった理由で駐車する人がいれば、本当に必要としている人が利用できない</p> <p>エレベーター：「楽だから」「誰でも利用できるものだから」と利用していて、エレベーター以外で移動が難しい人が利用できない。</p>
<p>②「心のバリアフリー」って何だと思いますか？ グループで話し合ってみましょう。</p> <p>（「心のバリア（障壁）を取り除くためには、どんなことをしたらよいのでしょうか。）</p> <p>“心のバリアフリーとは、相手の立場になって考え、行動を起こすこと”</p> <p>（補足）</p> <p>○どんなバリアがあるか、いつも意識しよう</p> <p>バリアに直面しているその人の身になって考えたり、困りごとや悩みを想像してみる。どんな困難を抱えているか、見た目で判断せず、その人の身になって考えてみましょう。</p> <p>○何に困っているか、コミュニケーションを取って理解しよう</p> <p>どのような困難に直面していて、どのような助けや配慮が必要かは、人それぞれです。何か困っていることは無いのか、手伝えることはないか、コミュニケーションをとって確認しましょう。</p> <p>○困りごとがわかったら、行動を起こそう</p> <p>どんな困りごとがあるかがわかったら、具体的な行動を起こしましょう。このとき、車椅子に触れる前に一声かける、白杖には触らないなど、相手にあわせた配慮を忘れないことが大切です。困りごとは相手によって様々なので、たとえ辞退されたとしても、継続して行動することが重要です。</p> <p>様々な人が暮らすこの社会で、もしかしたら、あなたの何気ない行動や意識が、誰かにとってのバリアを生み出しているかもしれません。周りの人やバリアフリー設備に意識を向けること、それが心のバリアフリーにつながります。困ってそうな人がいたら、コミュニケーションをとり、どんなバリアに直面しているのかを知ってください。バリアに気づき、それぞれのバリアに応じた配慮や行動をとることで、心のバリアフリーが広がります。</p>

（展開）振り返り

生徒たちの本時の学びで良かった点を簡潔にフィードバックする。
これからの行動への期待を伝え、振り返りを行う。